



親の会だより

第86号平成29年3月 発行

東大阪市手をつなぐ親の会
(年 3回)

(題字 吉岡名誉顧問)

東大阪市自立支援協議会

会長 坂本 ヒロ子

東大阪市手をつなぐ親の会会長の私は、知的障害者(当事者)の代表として社会福祉審議会、自立支援協議会、障害者差別解消地域協議会等、東大阪市の福祉を考える会議に委員として参加しております。

各地に設置されていますが、東大阪市の自立支援協議会の様子をお知らせいたします。

東大阪市自立支援協議会は、当事者・事業者・行政がともに障害福祉を考える場として、平成19年に設立され、現在は6つの部会(就労部会・こども部会・くらし部会・地域移行地域定着部会・権利擁護部会・発達障害支援部会)と「当事者中心の会」が設置され、毎月あるいは2ヵ月に1回開催され、地域の課題やニーズについてそれぞれの部会で検討をしております。私は権利擁護部会の部長をさせていただいています。全体会は5月と11月に、運営委員会は偶数月に、部長会議は奇数月に行われています。

3月には、自立支援協議会での取り組みを多くの人に知っていただき、意見を聴かせていただくために意見交換会が開催されています。

ちなみに今年度は、3月11日(土)13:20~16:35 勤労市民センター(ユトリート東大阪)です。今年のご案内プログラムを掲載します。

どのようなことが検討され、どんなことが東大阪市における課題かを知るためにもぜひ関心のある部会の意見交換会に出席されて意見、思いをお伝え下さい。そうすることが東大阪市における福祉の向上につながると思われます。

○平成28年度 東大阪市自立支援協議会 意見交換会プログラム

子ども部会	【テーマ】 みんなで考えよう子どもの生活！ ～家庭、福祉、教育それぞれの立場から～
-------	---

<p>1階 大会議室 13:50～15:05</p>	<p>【内容】 子どもの教育を受ける権利や当たり前の生活を送る権利を保障するために大切にすべきことは何か？みんなで語り合しましょう。</p>
<p>くらし部会 2階 視聴覚室 13:50～15:05</p>	<p>【テーマ】 高齢化と医療福祉連携 ～「入院時コミュニケーション支援」制度化を踏まえて～ 【内容】 この制度の今後のよりよい運用に向けて何をどうすべきか。より幅広く高齢化の時代の医療福祉連携をどう進めていくべきか。皆さんと論議したいと思います。</p>
<p>当事者中心の会 1階 中会議室 13:50～15:05</p>	<p>【テーマ】 協議会への当事者参画を目指して ～私たち抜きに、私たちのことを決めるな！～ 【内容】 ① 花園ラグビー場の改修工事に向けてのバリアフリー提言 ② 自立支援協議会各部会の傍聴 ③ 障害のある人の防災について 上記のテーマを中心とした2年間の取り組み報告、意見交換を行います。</p>
<p>権利擁護部会 1階 小会議室3 13:50～15:05</p>	<p>【テーマ】 触法障害者への支援について 東大阪市における障害者差別解消の取り組み 【内容】 東大阪市における相談及び紛争の防止策のために取り組みを報告し、差別のない地域の実現に向けて何が必要かなど意見交換したいと思います。</p>
<p>発達障害支援部会 1階 大会議室 15:20～16:35</p>	<p>【テーマ】 幼児期、学齢期、成人期それぞれのライフステージをつなぐために何が必要か？ 【内容】 発達障害部会で集約してきた各分科会の経過を報告し、会場の皆さんと、今後の発達障害児者支援に何が必要か、考えを出し合っていけたらと思います。</p>
<p>くらし部会 2階 視聴覚室 15:20～16:35</p>	<p>【テーマ】 東大阪版、より良い支給決定システムの構築を目指して。 【内容】 4年間の取り組みの成果報告、そしてワーキングでは取り組み仕切れなかった課題などについて、会場のみなさんと意見交換を行いたいと考えています。</p>

<p>地域移行・地域定着部会 1階 中会議室 15:20～16:35</p>	<p>【テーマ】 病院や施設を出て安心して暮らし続けるために</p> <p>【内容】 1年間の活動報告と共に、少しでも前進できるためには何が課題なのかを、皆さんと共に考えたいと思います。</p>
<p>就労部会 1階 小会議室3 15:20～16:35</p>	<p>【テーマ】 「働きたい」おもいを地域で支え合うために</p> <p>【内容】 具体の相談や支援の中で感じておられるご意見を出し合い、ともに考えていけたらと思います。</p>

*問い合わせ先:東大阪市福祉部障害者支援室
電話 06(4309)3183
FAX 06(4309)3813

アメニティーフォーラムに参加して

昨年7月に起きた「津久井やまゆり園」事件のあと、何かすっきりしないもやもやした気持ちがずっと続いています。そのような中、ここ数年参加しているアメニティーフォーラム21へ参加してきました。

「ハンディのある人の豊かな地域生活の実現」を目指して発信しつづけている全国地域生活支援ネットワークが主催し、全国手をつなぐ育成会連合会も後援しているフォーラムで今年で21回目、全国から1000人以上の参加があり、若い支援団体の参加が多いフォーラムです。

今年は、福祉を巡る課題は広がりを見せており、引きこもり、高機能発達障害、高次脳機能障害、貧困もテーマに上がっていましたが、「津久井やまゆり園」の事件の整理人口減少局面での日本社会の(福祉の)未来を考えることなど盛沢山のプログラムでした。

その中で、平成29年2月7日厚生労働省「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部で決定された「地域共生社会」ということばをよく聞きました。

「地域共生社会」とは 一高齢者や子ども、障害者の福祉一体化へー(制度、分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会)は、平成32年初頭に全面展開するというのでこれからどのように進んでいくのか、注目しなければならぬことです。

2月10日のフォーラム 「輝くいのちの伴奏者たち 障害福祉の先達との対話」の中で浅野史郎さんが、「津久井やまゆり園」事件でのアピールメッセージを読み上げ、拍手で採択されました。アピールは次の通りです。

アメニティーフォーラム 21 アピールメッセージ

とても悲しく、恐ろしい事件が起きました。

神奈川県「津久井やまゆり園」という入所施設で、元職員が、入所している人を次々と刺しました。19人が亡くなり、27人がケガをしました。

事件から半年が過ぎました。でも、私たちは忘れることができません。1年経っても、10年たっても、忘れられないでしょう。亡くなった人のご冥福と、ケガをした人の早い回復をお祈りしています。

私たちは悲しんでいます。

どうして、重度の障害がある人が刺されたのですか。どうして、痛い思いをして殺されなければならないのですか。

私たちは、怒っています。

入所している人を刺した元職員は、「障害者はいなくなればいい」と話しています。でも、いなくなればいい人なんていません。どうして、勝手に刺して殺してしまったのですか。

私たちは、疑問に思っています。

なぜ、亡くなった人の名前が知らされないのですか。障害のない人だったら、名前は公開されたはずです。重度の障害があると、死んだ時に名前を隠されてしまうのですか。

私たちは、反省しています。

刺されてしまった人は、どうしても津久井やまゆり園でないと暮らせなかったのでしょうか。生活するための手伝い(支援)があれば、地域で生活できたのではないですか。

アメニティーフォーラムは、ずっと障害のある人が地域で暮らすことを応援してきました。そのために必要な支援のことを考えてきました。新しいサービスや制度を作ってきました。新しい法律を作る後押しもしてきました。

私たちは悔しいです。

入所施設で、重度の障害がある人がたくさん刺されてしまったことが、悔しいのです。地域で暮らす支援をできなかったことが、とても悔しいのです。だから、私たちは次のことを約束します。

- 1 入所施設から地域の暮らしへ移りたい人がいたら、たくさん応援します。
- 2 重度の障害があっても、地域で暮らし、通うための場を増やします。
- 3 障害のある人もない人も一緒に体を動かしたり、絵を描いたりする場所をつくります。
- 4 障害のある人が安心して地域で暮らすことができるように、地域に住む皆さんへ障害のある人のことを伝えます。
- 5 そして何より、障害のある人がどう暮らしたいのか、時間がかかっても良いのでゆっくりお聞きします。

アメニティーフォーラム 21へ参加している皆さんも、私たちと一緒に約束しませんか。私たちと一緒に、障害があってもなくても、地域で当たり前で暮らせる時代を作っていきますか。